キラッと光る技術やユニークな取り組みで勝負する地域企業をご紹介します

元気企業だより

令和４年度　**～がんばれおおむた企業！元気発進！！～**

＜紹介企業＞

- ◆天龍製鋸株式会社大牟田工場
- ◆株式会社鉄万
- ◆田中刃物店
- ◆㈱三井グループ
  （バイクショップ三井、ホンダドリーム大牟田）
- ◆大牟田運送株式会社

～補助金獲得、技術相談など、企業活動を支援します～

発行：公益財団法人 大牟田市地域活性化センター

ＴＥＬ：0944（56）1717
Email：info@ecosanc.or.jp
ＵＲＬ：http://www.ecosanc.or.jp/tiiki/

詳しくはHPで➡

元気企業だより 2022 Part 1

天龍製鋸株式會社 TENRYU SAW 大牟田工場

チップソー（丸鋸）を「TENRYU」ブランドで世界中に販売する天龍製鋸㈱!!

身近な草刈り機や建築現場等で職人さん達が使用する電動工具、金属や木材を加工する工場などに取り付けられたりしているチップソー（丸鋸）。天龍製鋸㈱大牟田工場では、自動車部品となる鋼材の切断に使用される「鉄鋼用チップソー」をロボットがつくっているって！！信じられますか？今回は、2015年に大牟田市四箇新町のテクノパークに進出し、ロボットを導入した無人製造ラインの工場長として陣頭指揮をとられている鈴木啓二さんにお話を伺いました。

御社の歩みと大牟田テクノパークに進出した経緯は？

当社は、1913 年（大正 2 年）静岡県浜松市の天竜川の近くにて誕生しました。昔から天竜川上流の山奥は日本３大材木産地として知られ、当時は伐採した木材を筏（いかだ）に組んで下流へ運び、板や角材に加工していました。この時使われていた丸鋸はすべて外国製で、この丸鋸を修理・再生するのが当社の主な仕事でした。その後、社員２名をイギリスへ派遣し、丸鋸製造のノウハウを習得し、1922 年国産初の丸鋸を世に送り出したのです。

以来、常に業界のパイオニアかつリーディングカンパニーの自負をもって、日々「切削と加工」をテーマに、新素材・高度な切削条件にお応えする製品開発に取り組んでいます。また、全世界のユーザーニーズに応えるべく、生産拠点として国内は本社工場（静岡県袋井市）と大牟田工場の２ヶ所、中国に３ヶ所、タイに１ヶ所設けるとともに、国内はもとより北米・中米・欧州・東南アジア等世界各地に販売網を広げています。ちなみに、100 年を超える当社の歴史の中で、大牟田工場は最も新しい国内工場です。大牟田に進出した経緯は、2011 年の東日本大震災後、BCP（事業継続計画）の観点から、本社工場の生産を補完できる工場を必要としていたことと鉄鋼用チップソー生産能力増強のため、数か所の候補地を検討していました。その中で、この大牟田テクノパークは九州自動車道・南関 IC がすぐ近くで、交通の利便性が良く、気候も静岡に似ています。何より大牟田は災害が少ない地域であること等総合的に判断して、2015 年大牟田工場を建設しました。その後、地元大牟田で採用活動を行い、配属社員の研修実施後、2017 年 10 月に稼働を開始しました。

稼働後のご苦労や大牟田工場の特色などを教えてください。

この工場では当社が長年培ってきた製造技術を結集し、チップソーの無人製造ラインを新規開発しました。しかし立上げのメンバー全員が初心者でしたので、正常稼働までの道のりは険しく、当時の工場長と社員の努力は並大抵のものではありませんでした。そんな中、2019 年１月リーダー格の男性社員(当時 25 歳)が突然病魔に襲われ急死しました。これは苦楽を共にしてきた仲間にとって大変大きなショックで辛い出来事でした。しかし、彼の抜けた大きな穴を残りのメンバー６名でカバーし乗り越えられたことは、大牟田工場にとって大きな財産となっています。

大牟田では主に自動車部品となる鋼材の切断に使用される鉄鋼用チップソーの製造を行っています。前述の通り、チップソーの無人製造ラインを新規開発し、省人化によるコストの削減を図るとともに、ＡＩ技術を活用した検査技術等により、従来の製品より品質の安定化、向上を実現し、付加価値の高いチップソーを生産しています。現在の従業員は 12 名。20 歳代の若手中心の職場で、明るく自由な雰囲気の中、それぞれがアイデアを出し合える風通しのいい職場です。

大牟田工場のモットーと今後の事業展開は？

当社グループは社是である「誠実と和」を信条とし、「感謝の心をもって従業員の幸せと株主の幸せを追求し、社会の幸せに結び付けます」という経営理念の下、役職員が一丸となって業務に邁進しています。また、大牟田工場は新しい地で新しく立ち上げたこともあり、「一人の 10 歩より、十人の１歩」をモットーに、チームワークを何より大切にする職場です。自動化を追求する大牟田工場の生産システムは、まだ完全な形とは言えません。現在推進している中期経営計画（2021～2023 年度）では、①効率的な生産体制の構築、②新製品の開発および既存技術の向上、③バックオフィスの充実、④脱炭素への対応の４点を重点戦略とし、さらなる持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいます。

今後の抱負

当社グループは国内外の生産拠点において、より効率的な生産体制を構築し、デジタル技術を活用した自動化の推進や生産能力の増強を図り、さらなる生産コストの削減、納期短縮及び品質の向上を目指しています。また、2015 年国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同するとともに、2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指し、歩留まりの向上、省エネルギー及び鋸刃の長寿命化など環境に配慮した新製品の開発に努めています。

HP はこちら

会社概要

天龍製鋸㈱大牟田工場

福岡県大牟田市四箇新町１-４-１

TEL：0944-31-3716

元気企業だより 2022 Part 2

株式会社 鉄 万

ウエスの国内販売と古着の輸出を手掛ける㈱鉄万!!

日頃皆さんが「リサイクルの日」に出している古布や古着はどのように有効活用されているのでしょうか？回収された古布や古着は手作業で選別され、自動車関連企業や造船、機械加工関連事業所の他、自衛隊等へもウエス（機械等手入れ用雑巾）として加工・販売。リユース可能な古着は、フィリピンやカンボジアなどの東南アジア諸国をはじめインドやパキスタンなどの諸外国に輸出。今回は創業 75 年、古布・古着等の回収・リユース・リサイクル業を営む株式会社鉄万の“４代目若社長”こと永松大悟代表取締役にお話を伺いました。

創業から今日に至る経緯は？

創業は、戦後間もない昭和 23 年（1948 年）に祖父の永松英之が地金屋からスタートしています。祖父が亡くなった後は、祖父の弟、私の叔祖父（おおおじ）がしばらく業を引き継ぎ、今から 30 年程前の 1990 年代には、父の永松均が代表に就き、現在の古布・古着の回収・リサイクル業の礎を築き上げました。私は令和３年７月に父に代わり代表を務め、１年になります。

事業は、1950 年代以降の戦後復興・高度経済成長期の工場増設等でウエスの需要が高まり、古布のウエス加工・販売をメインでやっていました。その後、商社から古着の海外需要の話があり、1990 年代初頭から古着の海外輸出を始めるようになりました。

古布・古着の回収方法や回収後の作業、取引先などを教えて下さい。

古布や古着は、主に大牟田市や荒尾市の近隣自治体の他、九州各地の自治体などの資源物リサイクルで回収されたものが搬入されます。自治体の資源物リサイクルは、一定のルールに基づいて排出されるため、良質の古布・古着が回収できます。その他、地域の子供会等の資源物回収や小規模回収事業者さんからの搬入等もあります。

回収したものは、まず手選別でウエス用の古布と輸出用の古着に仕分けます。その後さらにウエスの素材や古着の種類（スカート、ズボン、シャツ、ジャンバー等二百数十種）に応じて手選別していきます。選別後、素材毎にウエスを整理・加工・包装。古着は種類毎に機械で圧縮・梱包し発送していきます。ウエスは現在、国内の製造業関係、特に需要が高い九州圏内の自動車関連企業をはじめ、造船業や自衛隊の他、地元の機械・工具屋等へ販売しています。古着は主に身体の体型が近い東南アジア（カンボジア、マレーシア、フィリピン、ミャンマー等）の他、アフリカ、インド、パキスタン、バングラデシュ、中東諸国に至るまで、年に数千トンを輸出しています。

古布や古着を扱う上での課題や特徴的なことってありますか？

たまに、汚れた衣服等や古布として扱わない布団等が混入しますが、それはゴミとして廃棄処理しなければなりません。当社が扱う古布・古着は洗濯され、汚れがない状態のものを回収対象にしています。是非、各自治体のルールに基づいて排出をお願いします。また、古着等からウエスに加工する場合、ボタンやファスナーなどの異物を除去する必要があり、ゴミとして処理しないといけません。古布・古着として回収した全体量の 2～3 割程度を廃棄物として処理している状況で、処理料も相当掛かっています。

また、例年、衣替え時期である 6 月頃は、大量に冬物が排出・回収される特徴があります。特に最近では、最初の新型コロナウイルス感染症拡大時に、お家時間が増え、衣類等の整理・片付けをされたせいか？ゴールデンウイーク明けに、１シーズン分位の回収量となる、とんでもない量の衣類等の排出がありました。

会社のモットーや会社経営上、大切にされていることは？

現在、従業員はパートを入れて 50 人程度で、8 割が女性従業員です。主に手選別作業等に従事し、丁寧に仕事をしてもらっています。また、簡単な袋からの開封作業等には障害者の方 4 人を雇用しています。

従業員の皆には、この仕事が、例えば、「このウエスで国防を担う自衛隊の機材等が磨かれている。」「海外の貧しい子供たちがこの服を着て喜んでくれている。」等々、『何かの役に立っている。』という動機付けをし、自信と自覚をもって働いてもらうよう、常々話しています。

今後の抱負

弊弊社の作業はどうしても手選別しかできず、人手不足で増産することも難しいのが現状です。しかも取引のある諸国も様々な災害や都市のロックダウンやコンテナ不足の影響もあり、流通にも問題がありますが、なんとか需要に応えていきたいと思います。

会社概要

㈱鉄万

福岡県大牟田市西新町１９

TEL：0944-55-2551

元気企業だより 2022 Part 3

田中刃物店

家庭用から職人用まで刃物の販売・研ぎ・修理を60年近く続ける田中刃物店!!

今回は、ほとんどのご家庭で毎日使われている包丁やＤＩＹなどに使う大工道具、アウトドアやキャンプに使うナイフやナタ、庭や花壇の剪定に使うハサミ、草を刈る鎌、畑を耕す鍬など、家庭用から職人用まで幅広く品揃え（販売）、その刃物の研ぎ修理の店を、大牟田で 60 年近くにわたり続けている「田中刃物店」を紹介します。コロナ禍の中、「お客様に喜んでもらえるお店」を目指し、奮闘されている２代目代表の田中弘晃さんにお話を伺いました。

創業の時期や当時の状況について教えてください？

昔より父（田中輝雄）の実家が佐賀の神崎町（今の神埼市）で刃物店を営んでいたことから、父も北九州の刃物店に弟子入りし、昭和４０年、大牟田市日出町（現在の場所）に「丸田屋刃物店」の名前で創業しました。当初は刃物の研ぎと修理をメインに刃物の店頭販売を始め、母との結婚後は母の営業力を生かし徒歩にて縫製、食品などの会社への出張販売や研ぎ修理の出張受付を始めています。その後、一般家庭にも幅を広げ刃物販売がメインになっていきました。好景気の時期とも重なり出張販売では需要が増え、昭和 58 年に店をリニューアルし、店名も「田中刃物店」に変更します。

何がきっかけで、いつ頃、後を継がれたのですか？

私が店に入ったのは２２歳（平成８年）の時です。一人息子であり、子供のころから何となく後を継ぐことになると思ってはいましたが、高校卒業後、社会勉強も兼ね、市内の建材店に就職し配送や工事などの業務をしていました。父より自分の作り上げた研ぎの技術を全部教えたいとのことで建材会社を退社後、他の刃物店や研ぎ師のところに弟子には行かず、最初から店に入り父より刃物の研ぎや修理を学びました。ただ親子でも仕事中は師匠と弟子の関係から、手取り足取り教えてもらったことは一度もなく、基本的に見て盗む、どうしても解らないときは聞いたことだけを教えてもらう感じでした。平成３１年４月に父が亡くなってから、私が店を引き継ぎ、現在は妻と２人で営業をしています。

刃物店ならではのご苦労や新しい取り組み、目標などは？

景気が悪くなるにつれ出張販売が出来る会社も販売数も減ったことから「刃物の研ぎ修理」に原点回帰し、車両での研ぎ修理の受付を始めました。現在では市内をはじめ筑後地域や荒尾、南関、玉名地区などの食品、縫製、保険などの会社や家庭への訪問の他、各イベントへの出店と幅を広げています。しかし、コロナ禍の中で研ぎ修理の依頼、包丁などの販売数も減り、売上も大幅に減少したことから、何か別な方法で刃物の研ぎ修理の依頼を受けることが出来ないか？と思い、刃物の研ぎ修理オンライン受付「hamotto」（ハモット：「刃物を元の形に、刃物を元の切れ味に、刃物をもっと大切に、刃物をもっと身近に」がコンセプト）を始めました。当初は問い合わせばかりでしたが、Instagram など SNS を利用し研ぎのビフォー・アフターの写真を掲載しだしたところ、最近は県内はもとより五島列島など離島や関東関西からの研ぎ修理依頼も多くなってきました。また、NTT のテレワークシステムを導入し、市内近辺の会社や家庭への電話受付を始め、電話頂いた所へ訪問するスタイルに変更。出先からでも研ぎ修理の問い合わせや受付ができるようになりました。店に入って約２５年、今になって父の研ぎの技術の凄さが解ります。これからも研ぎの技術を極めていく中で、ベースであり一番の目標は父の技術です。

研ぎ、修理、販売など扱われる刃物や得意先は？

研ぎと販売は、包丁類・ハサミ類・大工道具・カマ・砥石類・チェンソー・刈払機・電動工具・その他刃物全般です。チェンソー・刈払機などのリース・修理。柄の交換（包丁・くわ・カマ等）もします。１か月に研ぎ修理は 150 件以上、販売等は 30～50 本程度。一般家庭への研ぎ修理の訪問受付と販売の他、市内小中学校、近辺の給食センターや高校、食品加工会社や縫製工場、さらに先程お話しました「hamotto」オンライン受付で得意先を増やしています。

刃物店ならではの課題やこだわりなどがあったら、教えてください？

研ぎや修理に使う材料高騰、また刃物制作の技術向上による研ぎや修理の複雑化で現状価格での研ぎや修理が難しくなってきています。しかし、少々値段が高くても使う方が使いやすく、切れ味が持続する、また研ぎながら長く使え、愛着がわく刃物の販売を心がけています。また、研ぎ修理は元の形、切れ味に戻すのはもちろん、刃以外もサビ落しから柄（持ち手）の部分の磨きや修理も含め刃物全体のトータルサービスに手間をかけ、昔から大事に使われているものを、これからまた使えるように可能な限り修理していくサステナビリティの精神を大切にしています。

今後の抱負

「良い包丁は切れすぎるから怖い」「切れすぎると怖いからほどほどに砥いで」と言われる方がいます。「hamotto」（ハモット）のコンセプトのとおり、切れる刃物が当たり前で、刃物店がもっと身近に感じられるものになったらと思います。どなたでも気軽に入れるお店をめざし、これからも頑張って行きます。是非一度、お越しください！

会社概要
田中刃物店
福岡県大牟田市
日出町 2-1-22
TEL：0944-55-4559
HAMOTTO4559

元気企業だより

2022 Part 4

㈱三井グループ
（バイクショップ三井、ホンダドリーム大牟田）

バイク販売・修理のホンダドリーム大牟田、指定工場完備のバイクショップ三井!!

今回は、バイク業界では珍しい女性社長（代表取締役）が経営する㈱三井グループで、創業 41 年目を迎えた㈲バイクショップ三井と HONDA 専門のバイク店・ホンダドリーム大牟田を紹介します。SUZUKI、YAMAHA などのバイクメーカー各社の新車等の販売・修理をはじめ、最近では指定工場取得に成功した㈲バイクショップ三井。大牟田で唯一ホンダの大型バイクまで販売できるホンダドリーム大牟田。先代社長のお父さんの後を継がれて、現在、女性ならではの感性と持ち前の明るさ、米国カリフォルニア大学で取得した MBA（経営学修士号）と企業経験を糧に会社を牽引している代表取締役の三井千賀子さんにお話を伺いました。

創業から、後を継がれた経緯など会社の歩みを教えてください！

創業は、父（邦廣）が母（てつよ）とともに、昭和 56 年にホンダショップ三井を開業しています。昭和 63 年に屋号を㈲ホンダウイング三井とし、その後、現在の㈲バイクショップ三井に改称しました。20 年前、私は飲食店を展開する企業で社員教育や海外取引等を任されていましたが、父が病魔に侵され、代わりに代表取締役として会社経営を行うことになりました。当時は、「女にできるわけがない」という周囲の目や融資も厳しかったのですが、就任から 1 年、筑後地区の売上№1 となり HONDA から表彰を受けました。平成 26 年に不知火町にバイクショップ三井を新装オープンさせ、弟に任せています。平成 30 年 4 月にこのホンダドリーム大牟田を新規オープンし、おかげさまで、現在 2 店舗を経営しています。

バイクショップとしての特色や売りは何でしょうか？

現在、バイクショップ三井では、HONDA をはじめ SUZUKI、YAMAHA などバイクメーカー各社の 50 cc～大型バイク（HONDA 製品は 250 ccまで）の新車を販売しています。ホンダドリーム大牟田では、ホンダのバイク専門店で大型車まで取り扱うことができ、足回りなどのカスタム仕様も対応できます。新車販売では、車検などの法定点検をパッケージにした「メンテナンスパック」を導入し、お客様に好評を得ており、2 店舗で新車を年間 800 台程度販売しています。当然修理も行いますが、さらに顧客サービス向上と事業の安定化を図るため、バイクショップ三井では、今年、国の「事業再構築補助金」を活用し設備を導入して「バイク車検指定工場」の認可を取得し、バイクの車検が自社で行えるようになりました。現在、月 10 台ペースですが、今後は倍増させ年間に 240 台の車検整備を目指しています。現在の従業員は、全員で 10 名ですが、笑顔と安心・安全をモットーに接客させていただいています。

バイク販売の他、お客様とのふれあいやサービスなどはありますか？

バイクのレンタル事業もやってます。バイクショップ三井とホンダドリーム大牟田の各店舗で月に 8 台程度のニーズがあります。また、ライダースーツ、ブーツ、ヘルメット、グローブなども各種取り揃えております。その他、お客様とのふれあいの場として、3 月～11 月の各月にツーリングを開催し、毎回 30 人程度参加いただいています。12 月は忘年会。2 月はボーリング大会を開催しバイク仲間で盛り上がっています。また、熊本の大津町にある HSR 九州（サーキットコース）で開催されるライディングスクールに、年に 1 回、10 数人から 25 人程度参加し、運転テクニックを磨いてもらっています。

経営上のご苦労や課題、今後の目標などは？

一番の課題は、人材不足です。特に整備士。今後は若手社員でも出来る車検整備の仕組みをつくって行きたいと考えています。また、人材不足で絞っていた車検対応も指定工場取得により現状の２．５倍の拡大を目指しております。また、ホンダドリーム大牟田敷地内には新整備工場を建設致しました。工場内にはガラスコーティング施工を見学できる設備も併設されています。今後はフル活用で頑張っていきます。

今後の抱負

次の世代への事業継承が一番の課題です。まずは若い世代の人材育成と次にホンダドリーム大牟田の指定工場化も考えています。人が集まるためには働きやすい職場環境を整えていくのが一番と思い、就業規則と定年後再雇用社員就業規則の見直しを行っているところです。

会社概要

㈲バイクショップ三井
大牟田市不知火町 2-8-1
TEL：0944-41-8228

ホンダドリーム大牟田
大牟田市橘 934
TEL：0944-58-5330

元気企業だより 2022 Part 5

大牟田運送

今年で創業 96 周年、大牟田の物流をリードする大牟田運送!!

ＪＲ貨物輸送、トラック/ローリー輸送、工場内物流などの運送業をはじめ、一般倉庫や定温危険物倉庫などの倉庫業の他、近年では太陽光発電事業にも参入し SDGs（持続可能な開発目標）の視点で、省エネ輸送（モーダルシフト）にも積極的に取り組んでいる創業 96 年の歴史を持つ大牟田運送株式会社をご紹介します。今回は、代表取締役社長の北原薫さんにお話を伺いました。

創業の経緯や変遷などを教えてください！

遠く江戸時代の飛脚による伝馬所が明治時代になると陸運元会社に衣替えし、明治 20 年代には鉄道網の整備により、馬車輸送から鉄道輸送に代わりました。大正時代に入ると鉄道輸送の活用により乱立していた小運送業者の整理・統合が行われました。その流れを受け、明治中期より大牟田で起業していた物流企業５社（大運、三池倉庫、八坂、新村、有明）が、昭和２年に合併して大牟田駅構内にて「大牟田運送」として創業しました。その後、事業拡大に伴い、昭和 30 年代には現三井化学様の大牟田工場内に事業所を設置し工場内物流を開始しました。また、平成 15 年にフリーズセンター（冷凍倉庫）、平成 19 年に定温倉庫センターを新開町に開設し倉庫業を強化しています。さらに物流以外の新たな取り組みとして、平成 27 年に新開ソーラー発電所を開設し、太陽光発電事業にも参入しています。

現在の主な業務内容や特徴的な取り組み等は？

主な業務内容は、運送業です。現在、トラック 50 台、ローリー16 台、フォークリフト 47 台でトラック輸送や工場内物流も行っています。主な取引先は、三井化学株式会社様、日本貨物鉄道株式会社様、デンカ株式会社様、日本通運株式会社様、山九株式会社様、丸全昭和運輸株式会社様などです。また、日本貨物鉄道株式会社様から大牟田貨物駅構内のオペレーションを任されており、有明地区のＪＲ貨物輸送を担っています。特徴的な取り組みといたしましては CO２排出量の少ない鉄道を活用した省エネ輸送に積極的に取り組み、かつ車両の大型化による効率化を図るなど、SDGs を見据えた取り組みに力をいれています。

太陽光発電事業や定温危険物倉庫について詳しく教えて下さい！

太陽光発電事業（新開ソーラー発電所）は、環境にやさしい自然エネルギーを有効活用するため設置し 0.9MW（メガワット）の発電量で、現在は全量売電しています。今後、蓄電システムの低価格化が進めば自社活用を考えています。定温倉庫は定温倉庫センター(1,910 ㎡)に続き、令和３年に健老町エコタウン内に有明沿岸物流センター(敷地面積 13,400 ㎡、定温倉庫 1,997 ㎡)を開設しました。有明地区では初の危険物の保管管理が可能な定温倉庫で第 3，4 石油類（引火点 100℃以上)に対応しており、市内各事業所で製造された化学製品をお預かりし、保管から出荷業務まで行っています。以前は遠方の定温倉庫に保管することもありましたが、自社定温倉庫の増設により物流が効率化できました。お預かりする製品の増加に対応して有明沿岸物流センターに増設を検討しています。

物流業界の動向と貴社の取り組みを教えてください！

単に物を運ぶのではなく、物流の安全と品質（破損、遅延防止）向上、省エネに対するお客様ニーズがより強くなっており、当社を選んで頂けるように、今後もニーズを的確に捉え対応できる社員教育等人材育成に力を入れています。また最近の自然災害に対する BCP（事業継続計画）確立も必要と考えています。この他、物流業界の課題である「2024 年問題（働き方改革関連法のドライバー時間外労働時間上限規制)」に対して、さらなる省エネ輸送の推進により長距離運転の削減に取り組んでいます。

御社のモットーと今後の事業展開などをお聞かせ下さい！

当社は、①お客様に喜んで貰える「仕事」、②仲間を思いやり大切にした「仕事」、③経験を活かした考えた「仕事」の『３つの仕事の実践』を合言葉に、「Ⅰ.お客様に信頼・満足して頂ける物流・荷役作業の品質向上に努める」「Ⅱ.安全優先を徹底させ、事故・災害の撲滅及び心身の健康を確保し、活き活きと働ける職場作りに努める」「Ⅲ.環境負荷低減と環境汚染の予防へ適切に対応し、環境保全に努める」の三つを目指しています。こうしたことから、令和元年に「安全性優良事業所（Ｇマーク)」、令和４年に「ISO9001：2015」、「事業継続力強化計画」の認定を取得し、物流業務の安全・安定・品質向上に取り組んでいます。また、社会の問題解決に繋がり、当社事業の新たな柱となる事業の発掘と挑戦として、DX や IoT を活用した①輸送品質の見える化（輸送監視システム)、②作業の効率化と安全性向上（偏積防止対策）③植物工場の事業化（健康機能性野菜）の研究開発を進めています。

今後の抱負

４年後には 100 周年を迎え、今後も成長し続ける企業となるため、既存事業を堅実に遂行し、新たなものにチャレンジする企業風土を定着させ、お客様、社員、社会などのステークホルダーから認められ・喜ばれ・信頼される企業を目指します。

会社概要

大牟田運送株式会社
大牟田市不知火町１丁目無番地
TEL：0944-53-3566